

大悲殿東昌寺

大悲殿東昌寺は、猿投神社の本殿の北東約 300 メートル、猿投山の麓にある曹洞宗の寺院である。1932 年、観音様への強い信仰心を持った住職によって創建された。

この場所に新しいお寺を作ったのは、隣に由緒ある山中観音堂があったからであり、その観音堂には 10 世紀に作られた有名な千手観音像が安置されている。

ご本尊は千手観音で、本堂に安置されている。本堂は一般公開されており、座禅の体験もできる。本堂の向かいには 33 体の小さな石の観音像が置かれているが、これはかつて山腹の道に沿って置かれ、小さな巡礼コースを構成していたものだ。

大悲殿東昌寺は一般的には静かに瞑想するのに適した場所だが、節分（通常 2 月 3 日）になると賑やかになる。日本の伝統的な暦で冬の最後の日である節分には、地元の人々が豆まきをして魔除けをするために、お寺に集まる。豆まきとは、固く乾燥させた大豆を投げて邪気を祓うという風習だ。